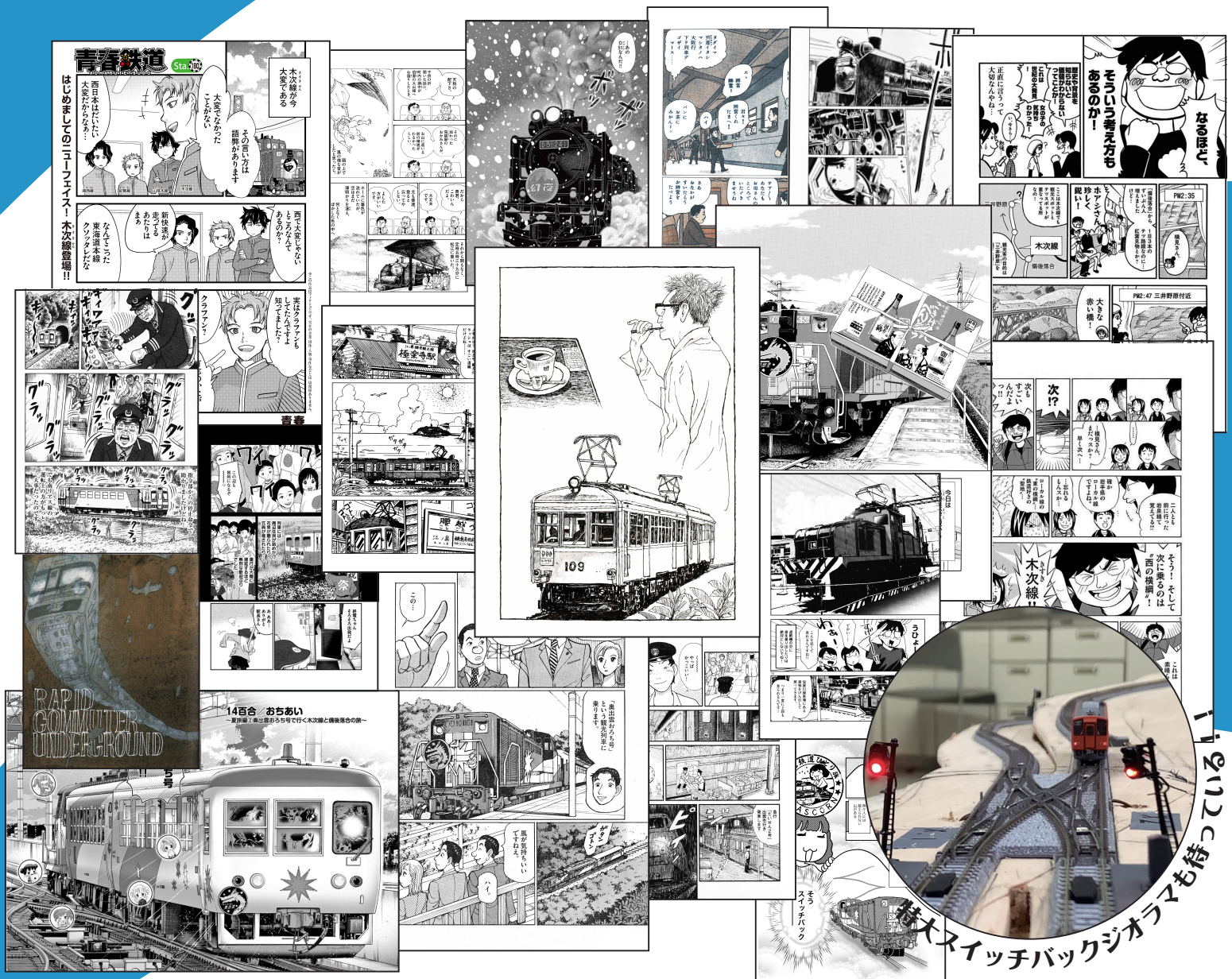
木次線・出雲坂根スイッチバックをなんとかするプロジェクト第１弾！

『鉄道マンガ展＠奥出雲』開催！！

期日：2022 年 9 月 23 日（祝）～11 月 23 日（祝）　開場時間：10:00－16:00

場所：道の駅奥出雲おろちループ併設「鉄の彫刻美術館」内

第 1 会場：入場無料／第 2 会場：大人 300 円　中高生 150 円（小学生以下無料）



＜展示予定作品＞『青春鉄道』『阿房列車』『駅弁ひとり旅』『おんな鉄道ひとり旅』『鎌倉ものがたり』『カレチ』『汽車旅行』『さんてつ―日本鉄道旅行地図帳 三陸鉄道 大震災の記録―』『終電ちゃん』『月館の殺人』『鉄子の旅』『新・鉄子の旅』『鉄子の旅 三代目』『鉄道少女漫画』『テツぽん』『ドラえもん　のび太の模型鉄道』『ヒゴロ』『RAPID COMMUTER UNDERGROUND』『ゆりてつ 私立百合ヶ咲女子高鉄道部』（五十音順）

※展示イラストと異なる可能性があります。ご了承ください。

共催：道の駅奥出雲おろちループ（駅長：藤原紘子）
　　出雲坂根スイッチバックをなんとかするプロジェクト（代表：江上英樹）

協力：京都国際マンガミュージアム、KADOKAWA、講談社、小学館、小学館クリエイティブ、新潮社、白泉社、双葉社、READY FOR、コウコー AD、合同会社部活

後援：島根県、奥出雲町、雲南市、木次線利活用推進協議会、雲南広域連合、奥出雲町商工会、一般社団法人奥出雲町観光協会、奥出雲町情報通信協会、一般社団法人庄原観光推進機構、西城町観光協会、山陰中央新報社、毎日新聞松江支局、朝日新聞松江総局、島根日日新聞社

＜催事スケジュール＞

9月23日（祝）10：00～
オープニングセレモニー

10月15日（土）13：00～(予定)
「出雲坂根スイッチバック、どうにかなるか？」シンポジウム　登壇予定：梅原淳、杉山淳一、鐵坊主他

※これ以外にも関連イベント計画中（続報をお待ちください）

世界に誇るべきジグザグと グルグルをマンガでつなぐ!!

怒れる雷の如く、ジグザグのフォルムを奥出雲の山塊に刻む、日本最大級の「木次線・出雲坂根スイッチバック」！その鉄路に絡みつきながら、グルグルと昇り龍のようにそびえる「おろちループ」！日本で随一の「インフラツーリズムの聖地」で行われる「鉄道マンガ展覧会」！！
世界に誇る日本マンガでも、鉄道を主題にしたものは決して多いとは言えませんが、改めて調べ直すと、旧来の「紀行文学」や「鉄道趣味」のマンガ化だけではなく、今や「衣食住」「ライフスタイル」の観点からの鉄道の見直し、特に「地方創生」に深く結びついたものまで多く見られます。今回の試みは、京都国際マンガミュージアムの協力を得ながら、特に木次線や出雲坂根スイッチバック（鉄道ファンの中ではつとに有名で、数多く取り上げられてきている）を中心に、鉄道マンガの歴史・意義をたどってみようというものです。
この展覧会を観て頂き、マンガの力を借りつつ、鉄道の歴史・意義を感じ取っていただき、そして、“当たり前のように”存在してきた「木次線・出雲坂根スイッチバック」の奇跡とも言える魅力を再認識して頂きたいと思います。

もちろん、今回の展覧会だけで、現在、木次線･出雲坂根スイッチバックが置かれた苦境を打開できるとは思っておりません。これはステップ１です。この展覧会を成功させて、より大きなステップ２、ステップ３に向けて、皆さんの力をつなげて行くことが何よりも大切だと思っております。
ジグザグか、グルグルかは別にして、皆さんと一緒に、必ず峠（サミット）までたどり着きたいです。何卒よろしくお願いいたします。

（木次線・出雲坂根スイッチバックをなんとかするプロジェクト代表：江上英樹）

★お問い合わせ先
道の駅奥出雲おろちループ　電話 0854-52-3111

★最新情報はこちらをご覧ください。
出雲坂根スイッチバックを
なんとかするプロジェクト＜公式＞
https://twitter.com/SwitchLOVE2022 ➡
または**道の駅奥出雲おろちループ**の
Facebook インスタをチェックしてください！

JR おでかけネット

列車で行こう、
鉄道マンガ展！

もっとつながる木次線

© 青春 /KADOKAWA © 奥野菊美・一條裕子 / 小学館 © 櫻井寛・はやせ淳 / 双葉社 ©YASCORN © 西岸良平 / 双葉社 © 池田邦彦 / 講談社 © 栗本一隆 / 小学館クリエイティブ © 吉本浩二 / 新潮社 © 藤本正二 / 講談社 © 綾辻行人・佐々木倫子 / 小学館 © 菊池直恵・横見浩彦 / 小学館 © ほあしかのこ・横見浩彦 / 小学館 © 霧丘晶・横見浩彦 / 小学館 © 中村明日美子 / 白泉社 © 高橋遠州・永松潔 / 小学館 © 藤子プロ・小学館 © 松本大洋 © 座二郎 / 小学館 © 松山せいじ / 小学館